

北方領土新聞

杉並区立 泉南中学校

北方領土問題

～今の私たちにできること～

『今の私たちにできること』
 北方領土問題は、国民みんなが協力していかないと解決できないと思います。しかしこの状況を解決することはできなくても理解していくことはできるというところがこのテーマの意味です。この新聞は北方領土問題について、まだよく分からない人にも参考になればいいと思います。



父祖伝来の地として受け継いできたものです。冬の平均気温は15℃前後、夏の平均気温は15℃前後と寒暖の差が比較的小さいという気候です。

『北方領土』ってどこ？何々？
 ↓北方領土とは、北海道本島の北東洋上に位置する。歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島の4つの島々のことです。北方領土は、日本がロシアより、早くその存在を知り、多くの日本人がこの地域に渡航し生活をしています。



『根室市に住む女子高校生』

岡野さんの話を聞いて
 ↓北方領土問題に関して、研究をして、高校生の話をききました。話をきく前に岡野さんの先輩の方から実際に北方領土に行き現地の様子を見に行ったという映像をみせてもらいました。その映像には『お問題』という点について注目して見ました。海に捨てたり、設備が良くないというところが映っていました。北方領土では、技術の発展は昔より進められているが、衛生的な発展は遅れているというところが映像でまざまざと見えてきました。

岡野さんの話では、北方領土問題の歴史や元島民の方についての話などをききました。北方領土が戦後の夏に占領され、一年後にはソ連が一方的に侵入し、約二万人近く住んでいた日本を強制退去させ、今いる元島民の方は平均年齢が80歳と高齢な方が多い。当時の様子も伝えられる方が少なく、当時の北方領土のことを若い世代の方にも伝えることが難しいと話していただきました。私たちが中学生と近い年齢でこんな積極的に活動する岡野さんが本気で真剣に考えていると思いました。若い世代の方にも北方領土のことに興味を持ってほしいという意見を納得しました。



『シヨバニの島』の島をみて

↓北方領土の事前学習でソ連軍が学校の授業中の時間に突然やってきて黒板にたし算の問題の答えをソ連軍の男が書いたという話を学びました。シヨバニの島でもそのシーンが父との再会を願って続けた兄弟の過酷な姿が描かれていました。理想を夢見ていても現実はいかに厳しいか、当時はこんな世界だったのかと思いつつ、映画をみています。元島民の方の話と重なる点から多くの人が現在と全く違う経験をしてきたという感じがわかりました。



『感想』
 ↓北海道に来て、二日目に北方領土のことについて話をきくだけでも、今までわからなかったことがたくさんわかってきました。それは、事前調べたことと、根室市内の高校で北方領土について、研究をするという活動があるという事です。しかし、事前学習のときから変わらないうことは、国民一人一人が北方領土問題について理解していくことが大切だということを感じました。特に若い世代の人たちは、関心するなという気持ちで、北方領土問題は、未だに解決しないままですが、テーマの意味のよう問題に関して理解していく人が増えていくことで、これから社会も変わっていくと思います。